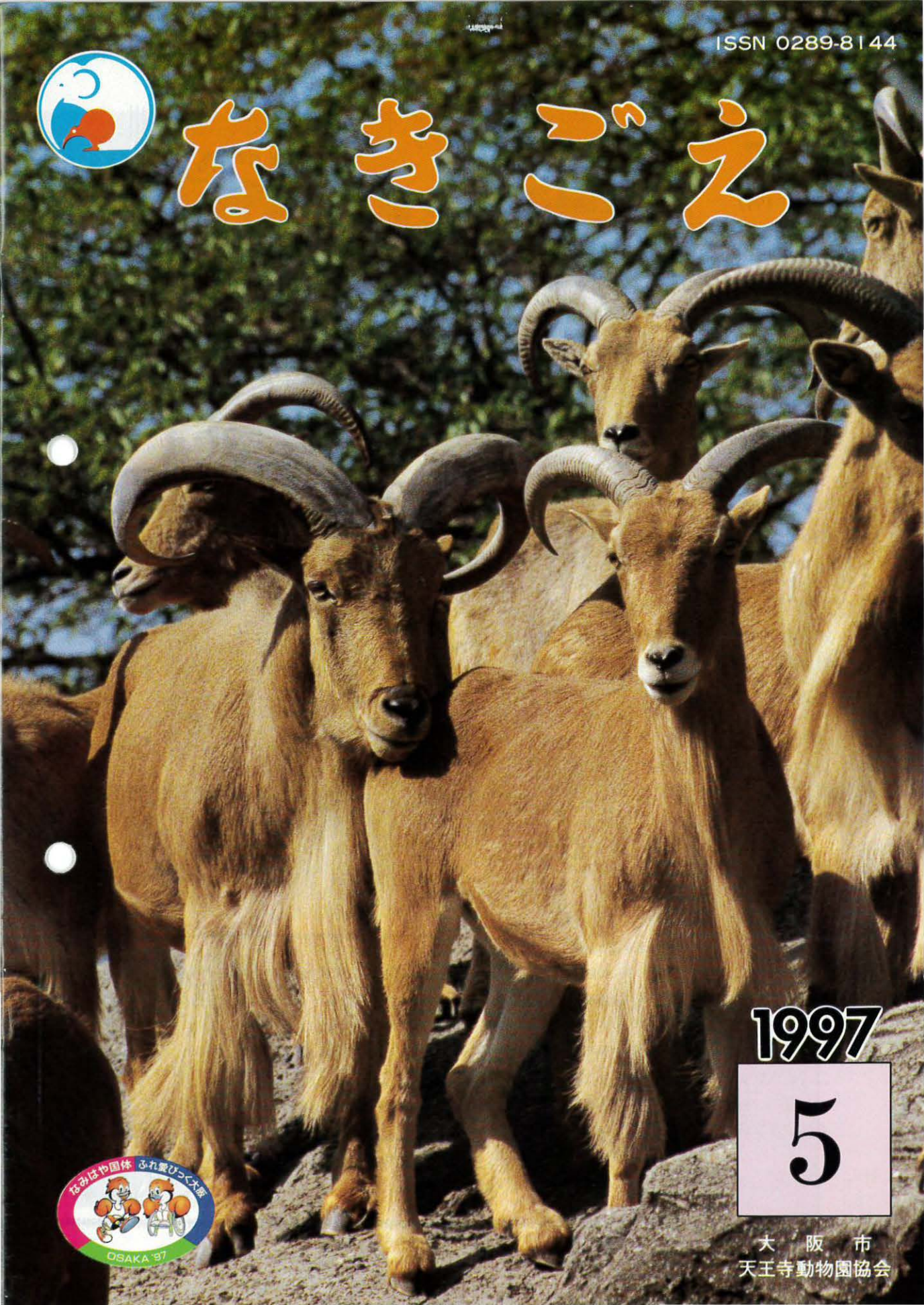




# なきごえ

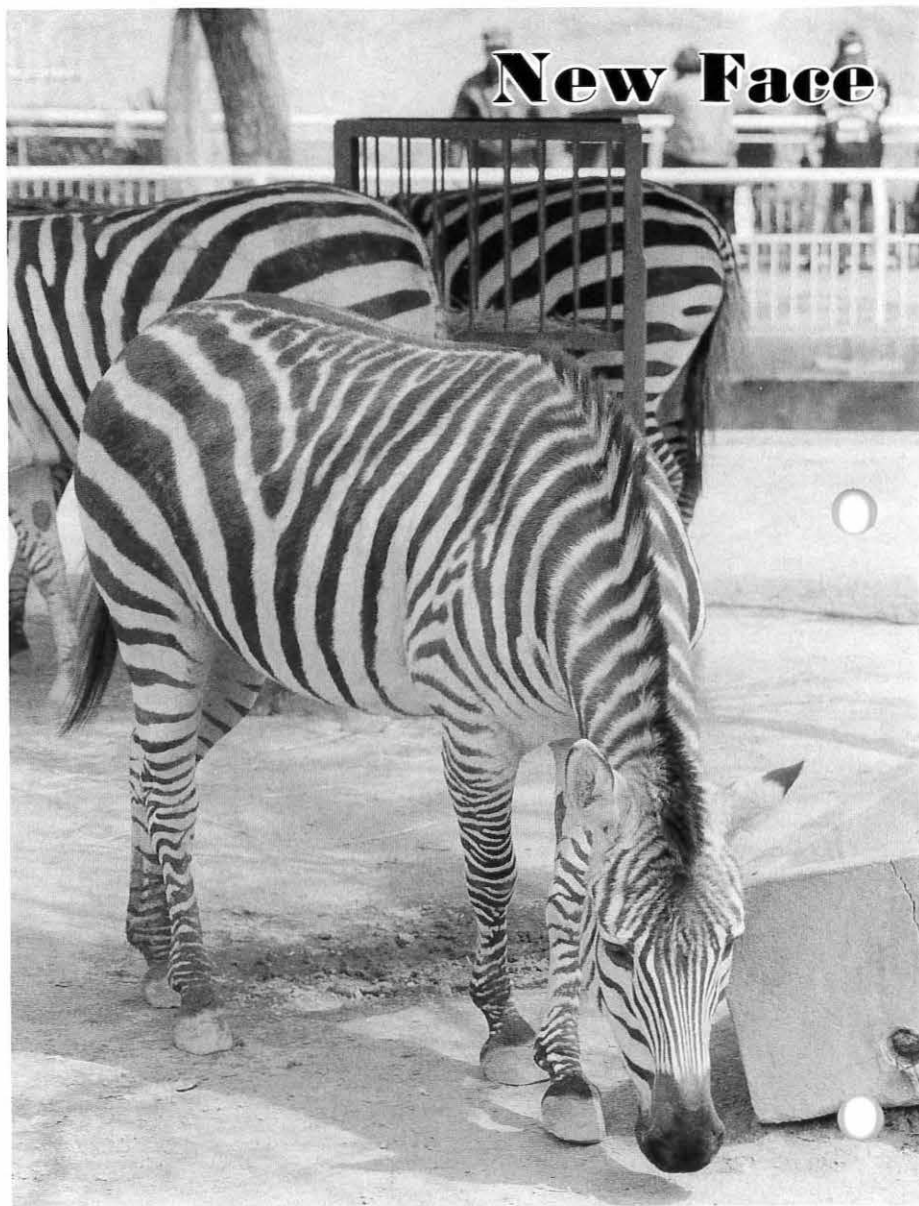


1997

5



大阪市  
天王寺動物園協会



(撮影：高橋 雅之)

- 2 — New Face シマウマはお見合い中 (高橋 雅之)
- 3 — 動物と私 すばらしい物語りの主人公たち  
(平松 三代)
- カバウォッチング バーバリ シープ (高橋 雅之)
- 4 — 動物園は命の感動を育む場 (沢井 泰子)
- 6 — 動物園ぐらし雑感 (樽本 勲)
- 8 — グラフZOO アイファアのカエルたち (野口 秀高)
- 10 — ケンちゃんの好きやねん動物園 (松葉 健)
- 11 — ZOO DIARY (竹田 正人)

### カバウォッチング

バーバリシープ  
ウシ目 ウシ科

*Ammotragus lervia*

タテガミヒツジとも呼ばれますが分類学上ヤギとヒツジのどちらにも近いといわれ、北アフリカの岩地や荒れた丘陵地に住み、敏捷で岩上りが上手です。

(撮影：高橋 雅之)

## ||||| 動物と私 |||||

### —すばらしい物語りの主人公たち—

子どもの本の店を開こうとしました時、一冊の本との出会いが喜びの体験となるような、そして希望をもたらすような、そういう本を集めた店にしたいと考えました。

子どもの絵本や物語りの中には動物たちがよく登場します。そしてその動物たちは、作者によって擬人化されていたり、時には動物そのものについて書かれていたりします。どちらの場合も私達読者にとって目を見張るような驚きや感動を体験させてくれることが、少なくないのです。私と動物との出会いは、そんなところから始まったような気がします。

ケネス・グレアムという人の書いた「たのしい川べ」(石井桃子訳 岩波書店)という物語りは、春、川ねずみともぐらが出逢うところから始まります。そこでは動物たちの暖かい、思いやりに満ちた日々があり、動物たちの会話にさえ私は人間関係のあり方を教えられたような気がしたものです。ある日、川ねずみともぐらは、帰って来ないかわうそのぼうやを探してボートをこぎ出し、動物の守護神であるパンの神に逢うの

### シマウマはお見合い中

ウマ目  
ウマ科

昨年、雌ばかりになってしまったグラントシマウマ舎に繁殖のため、広島市安佐動物公園から雄を借受けました。若い雄で、押され気味に見えましたが、ようやく慣れてきたようです。



平松 三代 さん

(児童書専門店 ひつじ書房店主)

です。その不思議な怖れと畏敬の念をいただく体験。連れて帰ったかわうそのぼうやを父親の目に入る所まで送り届けると、黙ってその場をはなれて行く控え目な態度、たった一人の悪役ヒキガエルを諷めるアナグマの行為、等々、人間社会におきかえたいできごとでいっぱいなのです。

ノンフィクションの写真絵本で「ぞうの子ラウルとなかまたち」というのがあります。(キャサリン・ペイン作 水原洋城訳 岩波書店)

この本では、著者がぞうの一族を観察するうちにぞうの声を聞きとるのです。それは超低周波音で普通には人間の耳には聞きとれない声なのですが、ぞう達はその低い声で話し合っていることがわかったのです。動物の社会にもその昔人間どもが乱暴を働いて我々の生命が危険にさらされたことがある。等といった話が伝えられているかも知れない気がします。

しかし動物たちを知るのには何と言っても一緒に暮らすことではないでしょうか。私事ですが、震災以来、二匹の犬(シェパードとゴールデンレトリバー)と安住の家を求めてようやく庭のある一戸建に落ち着きました。犬達は元気にはしゃいでいますが、夜になると家の中に入りたがって甘えた声で様子を伺うのです。家主さんとの約束もあって心を鬼にして、何とかなだめておりますが、現在の家に来る前のマンションでは、バルコニーで吠えられては困るものですから、二人と二匹がひっそりと一室に雑居寝をして過ごした一年余の夜は、現在思えば至福の時であったように思えるのです。

(ひらまつ ふみよ)

〇見て、聞いて、触れて……感じ、考える

**秋**の一日、私たち一行（幼児、小学生、中学生、父親、母親、合わせて33名）は、かねてよりの念願である天王寺動物園を訪ねました。「今日は、飼育専門の方からお話を聞かせてもらえる。ひょっとしたら動物に触らせてもらえるかもしれない…」と、一同の胸は期待にふくらみました。

**先**ず「アイファー」へ。ここは外国の自然に近い演出もなされていて、その中で、様々な動物が生息しています。爬虫類、両棲類、魚、水生昆虫など。とりわけ、水中と陸地と森林を同時に見られる大きなガラスの前では、目をみはりました。「あっ、岩かとおもったけど、ちょっと動いたよ。あれ大きな亀だ。魚が平気で傍を通っているよ。小さな亀もすいすい泳いでいる」まるで深い森の沼地に佇んでいる気持ちになって、感嘆の声がしきりです。別のコーナーでは、尾をぴんと立てた美しい緑色のマダガスカルミドリヤモリ、熟しトマトのようにふっくらまるいアントンギルガエルなど、これまで気味悪く思っていた生き物たちが、楽しく目にとびこんできます。水面に顔を少し出して、じっと立つような姿勢で私たちをみつめているワニたちに子どもたちは駆け寄り、話しかけ、握手したくなるような有様でした。一方、国内の自然の風景も再



ガラス越しに、ハイ握手

現されています。その中で水鳥たちが飛び立とうともしないで、ゆったりと餌をついばんでいます。カワセミがすばやく飛びます。驚きのひとときを過ごした後、いよいよ待望の時が来ました。

**別**に用意されていた一室に集いました。飼育専門家の芝野利夫さんが「ボールバイソン」（アフリカ生まれのへび）を抱いての登場です。



お話のはじまり

「へびのこと、みなさんはよくしってるかな？どこまでが胴体でどこからがしっぽかわかりますか？」「ほら、近くへ寄ってきて見てごらん。ここに穴があるでしょ。おしっこ、うんこが出る場所。ここからがしっぽというわけね」勇気のある子が近づきます。こわがりやさんもそれにつられて、お母さん、お父さんと一緒に歩み寄ります。つづいてさらに一大発見。腹部にあるうろこの一部が少し変形しているところを見つけさせてもらったのです。大昔、へびには足があったという痕跡です。たいそう驚きました。一つの個体を丁寧にみつめることで、その動物が変化しながら長い長い歴史を生き抜いてきたことを実感し、一人ひとりの想像力が駆り立てられるようでした。「ボールバイソン」は、何の心配もないように芝野さんの腕にからまって動いています。それを見る子どもたちから、不安や気味悪さが次第にうすらいでいきました。そして触らせてもらいました。優しくなでる子、そっと触れて手をひく子、大人たちも子どもにつづいて触ります。こわばった表情が笑顔へと変わっていきました。

〇子どものおもい、大人のおもい

一 日のことを、子どもたちは色々と言ってくれました。その中から：

「わたしは今まで、カエルやトカゲを気持ち悪いとおもっていたけど、はじめてアイファーに入ってから、考えが変わった。それは、よく見ると、目がかわいかったり、表情がおもしろかったりした

からだとおもう」(小5)「へびの体は、ぬるぬるしているとおもっていたのに、つるつるしていて気持ちよくなりした」(小2)「はくたちがへびを見てびっくりするとき、へびも人間を見てびっくりするのだそうです。こちらが優しい心をもてば襲ってこないのです。ボールバイソンはおとなしくて人なつこい。目と舌がとてかわいくて僕は飼ってみたいになりました。」(小5)

**お**母さんたちの声は次のようでした。「触ることで想像とは全く違う感触に驚きました。息子が近頃、かめや鳥、虫、金魚を飼い始めたのですが、世話をしながら、つぎつぎと新しいことに気づいて、愛情深くなっていくのは嬉しいことです」「触らせてもらって、すべすべと



私もほくもさわりたい

した弾力のある体は、精一杯生きている生命の力を感じることができました。今までの悪い先入観が、触るということできっぱり変わることができてびっくりしています。時々漂ってくる匂いも、(臭いな)といっているのは大人の方で、子どもたちにとっては、動物を感じる要素の一つだったようです」「ねえ、見て！見て！と興奮気味の娘に手を引っ張られながら見たアイファーは大人にとっても興味深いものでした。また、園の方のお話によって既成概念や先入観で物事を判断してはいけなさと反省させられ、楽しくも貴重な体験でした」「家族だけで行くとどれもこれも見せようと詰め込みがちですが、このような体験は心になるようです」

〇動物園を楽しく学ぶ場に

**動**物園の動物たちは、ペットではないのですから、人間に触られることをけって好んではないとおもいます。けれども、飼育専門の

人の指導と援助のもとで触れさせてもらう機会に恵まれると、子どもも大人も生物の命のほんとうの素晴らしさに近づき、理解を深められるとおもいます。

**動**物園は近年、多様な様相を呈しています。小規模のふれあい動物園から、広大なサファリパークまで、それぞれが特徴をもっていますが、子どもを含む市民側からすると、やはり、近くにある動物園によりいっそう親しみたいものです。近頃は、コンピューターによって仮想現実が増え、ボタン一つで様々な文化を楽しむことができます。しかし、現実には生きている動物の暮らしぶりを、人間の五感を通して知ることのできる動物園はこれからますます必要で貴重な存在だとおもいます。「自然に近い状況の中で生きる動物と出会える場」や「飼育専門家との交流によって感動的に学ぶ場」などを通して「動物たちは自然と共にその命を輝かし、人間もまた共に生きる存在である」ということを子どもも大人も学びとっていくのだろうとおもいます。



餌をあげるのはみんな大好き!

**従**来に比べれば改善はすすんでいます。コンクリート床の狭い動物舎に閉じ込められた動物を見るのは心が痛みます。動物たちがこうした中から解放されるとき、本当に私たち人間と動物たちとの交流が生きていくことなのでしょう。天王寺動物園には「アイファー」につづいて新しい「カバ舎」が今年中に完成するそうです。たいそう楽しみにしています。

(さわい やすこ)

# 動物園ぐらし 雑感

## 動物舎のこと

私が勤め始めた頃にはまだ戦前からの檻式の獣舎が大半であったがこの年に動物園改造5カ年計画がスタートした。南園に熊放し飼いの園としてモート(堀)式の熊舎が完成したのが、いわゆる無柵放養式の獣舎への転換の始まりであった。しかしこの無柵放養式の獣舎は、北極グマ舎やゾウ舎、日本猿の島など、昭和7年から10年にかけて南園が拡張されたときに建設されているので、クマ舎が初のモート式獣舎とはいえないのである。

同じ36年に日本鹿放飼場、水禽放養舎などが竣工したし、翌37年にはキリン舎、サルアパート、オランウータン舎が建設されるなど毎年工事、工事の連続であった。そのうち日本万国博に間に合わずべしで阪神高速道路の松原線が園の西側を南北に通過することになり、この部分にあったサイ舎、カバ舎、小獣舎など多くの獣舎と事務所棟の移転工事など9年間にわたって続いた。この間ずっと獣舎の原案作りに携わることになったが、「何で獣医として入った私がしなければならないのか…」と思ったことも2度3度ではなかった。当時の園長から「建築屋に獣舎考えと言っても無理なこと。野生動物の習性や跳躍力などを知っている獣医がやらねばどうする!」ということで徹を飛ばされたものだった。オーダーメイドの自宅でも入居してから、いろいろ不都合な所が出て来る



ラクダの引越  
1967(昭和42)年  
があるように、野生動物の獣舎のことならなおさら…。パーフェクトはあり得ない。取れる面積や工事費のこともある。動物を入れたら脱出したでは話にならないのでこの無柵放養式のモートの幅とか高さには大変気を使ったのを覚えている。

天王寺博覧会とき建設したバードケージ“鳥の楽園”は今も印象深い。「秋の

今春35年間勤めた動物園を退いてやっと人並みの生活に戻った気がしているこのごろである。1年365日いつも動物や動物園のことが心にひっきり本心の休息がなかった。動物の誕生や死に一喜一憂したこと、多くの脱出事故や職員の公傷事故の経験、阪神淡路大震災では早朝からおっかなびっくりでかけつけて被害の無かった時の安堵感、売店の火事さわざでたき起こされたことなどなど。恒例によって、本誌に思い出を含めて書いてくれとのことだがあまりに多くのことがあって何から書き始めたら良いのやら。思いつくまま書き綴ってみることにした。

前天王寺動物園事務所長 樽本 勲



しめ縄飾りをしたかつての恐竜大型模型1964(昭和39)年

補正予算では新動物園構想も入っているから至急原案を出せ」ということになった。大変有り難い話だったが「期日一日ではちょっと無理なのでは」と思ったがやはり、やるしかないという覚悟を決めて徹夜で原案を書き上げた。恐竜のモニュメントのあった日本庭園のところという地形、桜の記念植樹帯を残すことや南側のプロムナード用地を残すこと、通り抜け鳥舎にすることなど多くの条件をクリアするには一日ではあまりに短かすぎるのだが、必死にあらぬ限りの知恵を振り絞ったのをなつかしく思い出す。後日ではあったが、イメージパースまで描いて提出したが、自分なりによくやったと思っている。今はすべて設計コンサルタントがついているから楽なもの? いやそうでもないかも。

## 治療のこと

私が初めて大もの動物の治療にあたったのがクロサイだった。痰がでたり、咳が出るので細菌検査をしたり、ツベルクリンを注射して反応を見るとやはり結核であった。次第にやせてくるので、毎日注射したり薬を飲ませたり、徹夜の看病を続けた思い出がある。当時のサイ舎は運動場も狭く、とても健康にサイを飼える状態ではなかった。人間の結核患者も多かったのも一因だろう。当時は園路の舗装をしていなかったため、小石が多く園路に出ていて、これを入園者がアシカに投げるのでアシカの胃の中に小石がたまって食欲不振で死んだ例も多かった。また、ゴリラも客の投入したコインやボタンを飲んで死んでしまい、大変悔しい思いをしたこともあった。

キリンやバーバリシープといった草食獣がビニール袋を食べて胃の中で大きなかたまりになって死んだり、当時としてはいずれも解剖して初めて分かることで、なかなか治療までいかなかった。今は、動物病院と獣医師陣も充実し、ファイバースコープやX線装置などの器材も格段に立派になり、この種の障害で死亡するケースは大変少なくなったように思う。

象があやまって転落し、足を痛めたので消炎剤を注射したり、湿布したりと今はなかなか触らせないのだが、当時はまだおとなしかったのか飼育係の訓致が行き届いていたのか、よく注射などしたものだと思ひ出深い。

象の治療の思い出としては、万博時にインド政府から贈られた「ラニー博子」のことがある。まだ北園のラクダ舎やチンパンジーの調教場などに仮住まいさせていた頃で、牛乳やにぎり飯を食べていたので1才ちょっとの子象だった。突然ふらふらしたり倒れたりして何が原因か分からない病気になり大変心配したのだが、とりあえず体を暖めることを第1に毛布で大きな腹巻きをつけたり、部屋を暖めたりしたことがあった。もちろん栄養剤を与えたりもして1週間か10日間くらいで回復したのだが象は1〜3才ぐらゐまでが1番弱いことを実感したのもだった。

## 動物の誕生のこと

どんな動物の誕生でも嬉しいのだが、とりわけ力を入れていて北極グマの誕生(1986年)は大変嬉しいものだった。というのも永年北極グマ運?が悪くてなかなかいい番(つがい)に恵まれず、やっとのことで若いペアを揃えることが出来、その成長の結果だったからである。その後3回の成育に成功したが、当時は本州以南では最初のこととして鼻を高くしたものである。その後鹿児島市の平川動物公園や大分のケーブルラクテンチなどでも成育例が見られるようになり、番の良否もあるが技術も向上してきたものと思っている。

この技術や経験をいかして私が入手に苦労したメガネグマでもよい結果が出ることを望んでいるが、他にも永年飼育を継続しているキーウイのふ化が天王寺動物園としての宿題であろうと思う。

## 動物の脱出事故のこと

今さら思い出したくない苦い経験ばかりではあるが、考えてみるとサル類が圧倒的に多いのに気付く。続いてシカなどの有蹄類、それにメガネグマとヒョウ。鳥類では、フラミンゴやペリカンの例があった。コガタフラミンゴの切羽時期が遅れて鳥取の海岸まで引き取りに行ったことがあった。ペリカンも切羽が不十分であって街中に飛んでしまったが、上海動物園のペリカンやあの宇部常盤遊園のカッタ君のように大空も飛びたかろうに。よく先輩園長に「飼育



1968(昭和43)年当時のチンパンジー舎と、奥に事務所が見える

者にとって一番恥すべきことは動物を逃がすことだ」とよく聞かされた。私も反省ばかりだったように思うのだが、要は動物の日々の観察と獣舎の点検が大切で、さらに、動物に取り組む姿勢の問題だと考えている。

## 動物園のステータスについて

一昔前までは動物園のステータスの第1はそのコレクションの多さにあった。たしかに多くの種類を持つと飼育の難しい動物が入ってくるし他園にない珍獣や珍鳥も持つことになる。私は一般の人から「天王寺動物園の目玉動物は何ですか」と聞かれるのが嫌であった。やむをえず天王寺にしかないキーウイと答えてはいたが、繁殖に成功してこそ目玉の価値があると今も思っている。戦前の我が園はアカウアカリやウーリーモンキーそれにスマトラサイだつて飼ったことがあるし、私のかけ出しのときにはメガネザルも飼育した。今の動物園は絶滅に類している種類に対してその保存にいかにか寄与しているかがステータスなのであるという認識になっているので、一般入園者とのずれは大きいと感じている。



メガネザル 1962(昭和37)年

天王寺動物園はなぜか、キジやツル、またオオカミの種類の多さを誇ったが、玄人のマスターベーションだとの批判もあった。一方で、都市型の総合動物園?としてウサギ、リスやヤギ、メンヨウなど身近な動物も見たいというニーズもあり、狭い園域に苦勞したものである。これから生態展示にしていく方針だそうだが、またいろいろ悩むことが多いと思う。

まだいろんな思い出や反省などがあるが、また次の機会に譲りたいと思う。(たるもと いさお)

# アイファー

爬虫類生態館



# カエルたち

世界中に分布するカエルのなかまは約2,800種といわれています。アイファーでは7種類のカエルを展示しています。

飼育課：野口秀高(文)、西村慶太(写真)



**キ** オビヤドクガエル  
(アンドロバティス科)

とてもきれいなカエルで皮膚から分泌される粘液は毒性がある。体長は2cm、中米に分布。



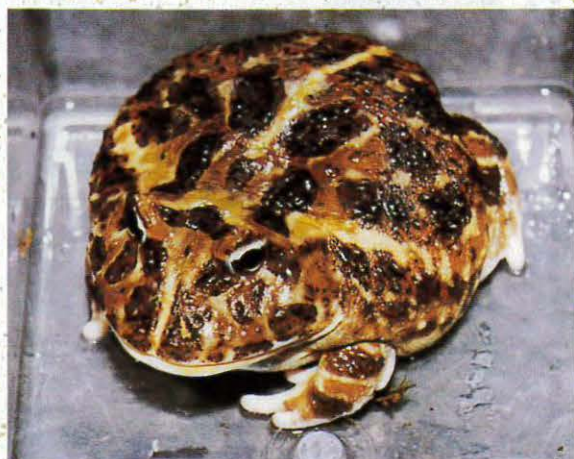
**ト** マトガエル / アントンギルガエル  
(ヒメアマガエル科)

ずんぐりむっくりの体で、色や形がトマトに似ていて、きれいである。体長8~10cm、マダガスカル島に分布。



**ナ** ンベイウシガエル  
(アカガエル科)

原生林にすむ大型のカエルで、人間の食用になる。体長12~18cm。南米に分布。



**ク** ランウェルツノガエル  
(ミナミガエル科)

目の上に、ツノ状の突起がある。乾期にまゆを作って地中で過ごし、雨になると繁殖する。全部で2,000~4,000も産卵するという。南米に分布し、体長75~125mm。



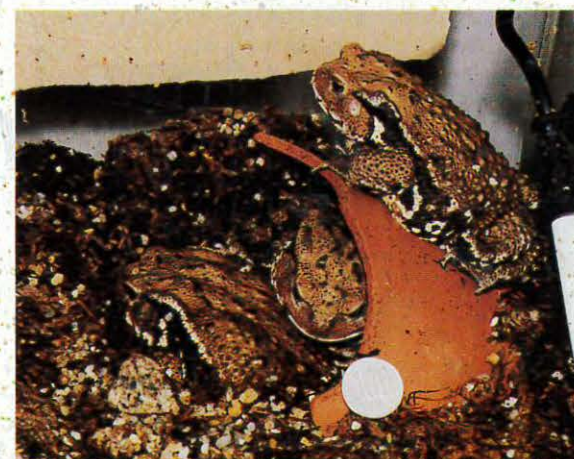
**コ** モリガエル  
(コモリガエル科)

平たいカエルで、目が小さく大きな水かきがある。湖や川にすみ、完全な水棲である。メスは卵を背中にのせてふ化をさせる。体長は20cmほど。南米北部に分布。



**ナ** ガレヒキガエル  
(ヒキガエル科)

溪流にすむヒキガエルで、鼓膜が小さく四肢が長い。体長8~13cm、日本の本州に分布。



**ニ** ホンヒキガエル  
(ヒキガエル科)

動きがにぶいカエルであるが耳腺から毒液を分泌し身を守る。体長7~15cm、日本の本州に分布。



愛ある暮らし、応援します。

# Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



## 生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

動物園で暮らす様々な生き物達、自然の中ではどんな暮らしをしているのか？動物園での世話の仕方は？仲間？など、写真と精密イラストをまじえ紹介します。

＜暮らしとかいかたシリーズ＜既刊本＞＞  
B5変型判・オールカラー

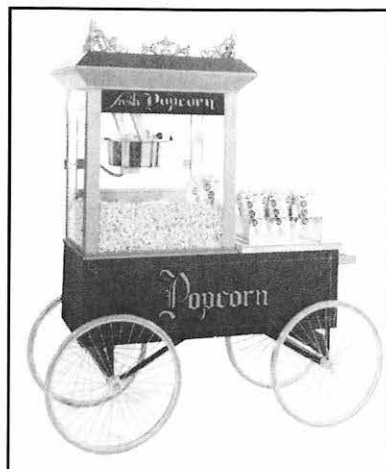
### むし 暮らしとかいかた

野山でみかける身近な昆虫たち  
250種を紹介。

### ちいさないきもの 暮らしとかいかた

昆虫以外の小さな生き物を320  
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



## マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他  
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30  
TEL (06) 865-0165

## 新・きれい色 FUJICOLOR SUPER G ACE 400



### カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091  
阪急三番街店 ☎372-5031

## 狼

その生態と歴史



平岩米吉著

### ニホンオオカミの正史

「大正の真神」とあがめられた古代から、「害獣」と恐れられ、やがて絶滅していったニホンオオカミの生態と歴史を数十年にわたって収集した正確な資料と、生態学の眼をもとめあげた。

ニホンオオカミの生態と歴史の集大成

# 狼 — その生態と歴史 —

平岩米吉[著] A5判 308頁 定価2,678円(税込)

ニホンオオカミは今もどこかで生きのびているのか——。

狼と生活をともにした実体験を基盤に、数十年にわたり収集した正確な資料と生態学の眼をもって、ニホンオオカミの特徴や大きさ、性質などを分析。今も根強く残っている残存説を検証するとともに、絶滅へといたる歴史をも詳述する「ニホンオオカミの正史」。

築地書館 〒104 東京都中央区築地2-10-12 TEL 03-3542-3731 FAX 03-3541-5799 振替 00110-5-19057  
●ご注文は、最寄りの書店または直接上記宛先まで。(直接郵送時の送料は一律400円です。)

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」  
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)  
好評発売中 ¥800(50度用)

## 天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……



オールカラー  
**500円** 園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06) 771-0201

ああ、男のやすらぎ。ジョージア

ジョージアで、ひと息入れよ。

Enjoy **GEORGIA**

**鳥獣輸入**

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

**有限会社 吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号  
 飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話(078)221-8195(代)

たのしい動物のお話は、ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!

園内、主要動物舎30数ヶ所にあります

関西特機株式会社  
 電話 06-762-2333  
 1回 30円

動物園内での  
お食事、ご休憩は

動物園内……………  
**中央売店**  
 TEL 06-771-0973

お食事・飲み物・おみやげ 動物園内  
**南園売店** TEL 06-771-7110

LOTTE

みんな大好き

**ゴアラのマーチ**

〈チョコレート〉

〈ストロベリー〉





# 雪印 つぶよみ フルーツ ヨーグルト



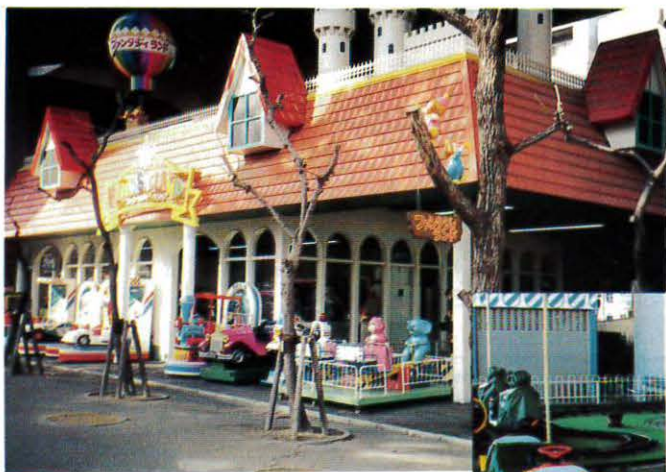
●ライチミックス ●ストロベリー ●アップル ●ピーチ ●フルーツミックス

おいしさは産地のよさです。

台湾のライチ、フィリピンのナタ・デ・ココとパイナップル—— ●ライチミックス  
 国産の女峰、オレゴンのトーテム、中南米のチャンドラー、季節の旬を追って—— ●ストロベリー  
 日本の富士、中国・韓国の国光。それぞれおいしい季節の—— ●アップル  
 桃といえば中国です。そして韓国。旬に一括収穫した白桃で—— ●ピーチ  
 アプリコット、メロン、アップル、パイナップル、ミカン。果物狂の—— ●フルーツミックス

お待たせ  
新発売

希望小売価格・税抜 **各100円**



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

**久竹娛樂株式会社**  
TEL(06)541-3938(代)



一日  
愉快地  
たのしめる

なきごえ

1997年5月10日発行(毎月10日発行)第33巻 第5号(通巻381号)

編集 / 大阪市天王寺動物園事務所

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 伊東重朗

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員 (井坂 進/馬詰好文/増野悦敏/中川哲男/藤田四郎/長谷川敏昭/落合正彦/宮下 実/榊原安昭/森本委利/高橋雅之  
市川久雄/中上正幸/佐藤紀子/萩原祐二/竹田正人/高見一利/大野尊信/野口秀高/早川 篤/村上勇一/西村慶太/山元貞幸)